

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 保健医療学部

名 前 喜多村 健

作成日 令和5年(2023)9月12日

## 1. 教育の責任

### 1) 湘南医療大学保健医療学研究科修士課程研究科長として

本研究科は、医療施設の現場で勤務している看護師、理学療法士、作業療法士、ならびに看護師、助産師、理学療法士、作業療法士を目指している学生で、自らの専門職としてのさらなるキャリアアップを模索している方々を対象に、高度専門職業人として、看護学ならびにリハビリテーション学の発展に寄与する人材養成を目標に、2019年4月に開設した。私は、この開設に当初から責任者として参画し、文科省への申請に際しては、中心的な役割を果たした。また、研究科開設後には研究科長として、院生が入学・修学してから修了するまでの全ての学務における責任者として務めている。また、研究科の授業科目では以下の科目の科目責任者です。

●保健医療学研究科 保健医療学専攻、授業科目：保健医療学特論、1年前期必修  
テーマ：序論・保健医療学総論，日本の保健と医療の動向①、日本の保健と医療の動向②、保健医療専門職としての課題、保険医療制度の歴史と概要

### 2) 湘南医療大学保健医療学部教授として

湘南医療大学保健医療学部教授としては、学生の入試、進級、卒業の認定における最終判断を含めた教育に係わる業務を遂行する教授会の構成員である。また、以下の科目を担当している。

●保健医療学部看護学科1年、講義、2単位、1年後期必修、病態学Ⅱ、Clinical MedicineⅡ、人体の構造と機能、ナンバリングコード(MNSC1)

おもな聴覚障害・咽頭疾患の原因、症状、診断、検査、治療。鼻疾患、副鼻腔、咽頭、咀嚼

●薬学部医療薬学科：授業科目：症候論(Symptomatology)、薬学部1年後期必修、講義、2単位、ナンバリングコード(YCPO1)、授業項目：眩暈・耳鳴り、SBOコード(E1-(2)-①-1)

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

私は、耳鼻咽喉科医師としての医療業務を始めてから、およそ50年となるが、勤務した職場が東京大学、国立病院医療センター（現在は国立国際医療研究センター）、自治医科大学、東京医科歯科大学と、いずれも医学部学生の教育、さらに若手の医師の臨床教育を目的としている施設である。このおよそ半世紀にわたる教育現場で経験したことが、現在の私の教育理念を形作っている。

その中で、最も重要な点は、全てにおいて、基本を教授することです。全ての課題・問題を解決するために、必要となる種々の作業は、他者から正しい基本を教授しない限り、身につけません。卑近な例ではお箸の使い方です。正しい指の持ち方は教わらない限り身につくものではありません。ヒトの行う種々の活動において、過去、人類が学んできた正しいあり方を教育により個々人が身につける事が肝要です。その為、ひとつひとつのテーマにおける基本的知識を教育現場では示し、学生には取得して貰うように務めている。

## 2) 理念をもつに至った背景

上記理念を持った背景には、私自身が大学で受けた講義で、現在に至るまで、その講義内容を詳細に覚えているのは、まさに、基本的事項の数々である事が関係している。

そして、本研究科の教育においては学問の基本的事項の教授が重要と考えている。それは、本研究科の設立時の構成からもうかがい知る事が出来る。2015年4月に、湘南医療大学保健医療学部は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛する」を大学の理念に掲げて設立し、教育内容の充実を図り、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士の養成教育を行ってきた。湘南医療大学保健医療学専攻修士課程は、保健医療学部の理念に基づき、保健医療に関わる高度専門職業人として、医療施設、保健施設、行政、地域で高度の専門性を生かし、チーム医療の中心として指導的役割を担う人材を育成する目的で設立されている。

この目標を達成するために、ディプロマ・ポリシーとして、①専門知識・能力・研究分野以外の人間や社会の多様性への理解を深め、②実践力・教育活用力を向上し③研究課題の発見、考察、設定、研究方法の構築を行い④管理・指導能力を発揮し⑤コミュニケーション・表現力を高め⑥社会的な責任と倫理観を身につける事としている。

本研究科の特色は、「看護学」と「リハビリテーション学」を包括する、より広い学問概念である「保健医療学」を学修し、修士(保健医療学)を取得し、日本が直面する保健医療に於ける課題に対処出来る能力を身につける人材を育成する点です。すなわち、「看護学」と「リハビリテーション学」という専門的な学問領域にとらわれずに、より、基本的かつ普遍的な学問である「保健医療学」の観点から「看護学」と「リハビリテーション学」を学修する事に特徴がある。以上からも、教育で基本的な学識を身につける事が肝要と考えている。

## 3. 教育の方法・戦略

普遍的、標準的な手法で、基礎的かつ基本的な情報を正確に教授する事を目標にし、これに加えて教科書を通読するだけでは取得出来ない内容を教育場面で提供する。

### (1) 聴衆参加型とする。

多数の聴衆を対象に、講堂にて行う講義形式の授業では、授業の合間合間に、教授した内容について、「多肢選択肢問題」を提示して、学生全体からのコメントを収集する。あるいは、教員自らが学生の元に歩みより、「君なら、この情報は正しいと思いますか？あるいはどう評価しますか？」というような質問を学生に投げかけ、学生自ら自分の意見をマイクを用いて発言させて授業を進行する。例えば、耳鼻咽喉科疾患の講義で「アレルギー性鼻炎」がテーマであれば、花粉症に罹患しているヒトに挙手してもらい、同世代の大学生の花粉症の罹患率を出席者全員で共有し、教科書に記載されているデータとの差異を認識させる。

### (2) 理解しやすく、記憶に残りやすい教材を選択する

講義形式の授業で用いるスライドのフォントサイズは、講義室の最後列でも充分読み取れる大きさとして、スライドに示す記述は、キーワードとその概略に留め、スライドは PDF としてプリントアウトし手渡す。スライド以外の教材として、授業科目に関連する音声を伴う動画を可能であれば使用する。具体的な例としては、のどの病気による嗄声(声がれ)を音声記録で聴取してもらい、言葉による説明だけでなく、具体的に経験して理解を深める。

- (3) 授業科目に関連する疾患を有する医療施設で経験した具体的な臨床例を提示する。  
本学の教育が「看護学」と「リハビリテーション学」であるため、全ての教育課題が疾患、病変と関連します。その為、関連する病変を有する具体的な臨床事例を紹介する事で、たとえ基礎的なテーマであっても、身近な例として実感し、理解を深める手助けとなる。具体例では、誤嚥についての講義では、誤嚥のメカニズム・成因の提示に加えて、実際の嚥下運動の動画を視聴させて、誤嚥で起きている生理運動の理解を深める事が出来る。
- (4) 講義施行時に、ニュースとなっている政治、経済、社会面での出来事について、学生の意見を求める。  
教育現場で取り上げている教育事項内容とは関連しない社会問題等を取り上げることで、1単位の講義時間内に、異なる問題について考える時間を与えて、一旦脳活動をリフレッシュして、新たに授業で取り上げている課題への集中を計る。

#### 4. 学習成果

学生からの授業評価ならびにコメント等の具体的な資料、データはないが、担当している授業の成績は、いずれも良好で、担当する領域を学生が十分に理解していると推測され、相応の学習成果が得られている。

#### 5. 改善のための努力

現状では、大きな改善項目はないと判断しているが、不備な点が指摘された際には指摘項目を是正する。更に、授業内容をさらに理解しやすく、教材で用いるデータも Up-to-Date して、常に最新の教材としている。

#### 6. 今後の目標

##### 短期目標

##### (1) 学生の授業評価ならびにコメント取得

現状では、具体的な評価やコメントのフィードバックがないため、施行した授業の評価を各年度内にフィードバックして、授業の改善を行う。

##### (2) FD 研修会への参加

各年度に開催される FD 研修会に参加して、教育実践の具体的な実践法を研鑽する。

##### 長期目標

(1) 複数年度(3年間)で集約した授業評価

単一年度でなく、最低 3 年間の授業評価を集約し、授業の問題点を洗い出し改善し、自己研鑽を行う。

(2) 教育以外のテーマで施行される講演の履修

教育に限らず施行される講演・講義の履修は、自らの教育活動の改善に大変参考となる。卑近な例は、日本専門医機構が定める様々な医療領域の専攻医の資格更新に履修を求めている各種のテーマの共通講習である。十分な教育効果があるように計算されたこれらの講義を履修することで、自らの教育活動のブラッシュアップが可能となる。

【添付資料】

なし